

▶西明彦

①「昆虫に作用する生態相関化学物質の研究」

昆虫が持つ匂い(いや臭いかな?)の化学的探索。

②彷徨からの脱出

▶南風原朝彦

①「無菌培養したマカラスムギ子葉鞘先端におけるインドール酢酸の生合成」

②かけがえのない4年間だった。様々な事を初めて知り、やってみた。様々な人が様々な個性と思いで接してくれた。その中で、自分の弱さ、汚なさを見ておののき、反発した。時には自分の小さな光に喜び、安堵した。生きる厳しさを論してくれた先生がいた。明るい暖かい心をくれた友がいた。両親、先生、先輩、友人、生協の人達、学務の人達、清掃係の人達、風呂屋のおじさん、食堂のおばさん……たくさんの人に助けられ、支えられた学生生活だった。山ほど言いたい事はあるけれど、最後の言葉はやっぱりこれしかない。ほんとに、みなさん、ありがとう。

▶土江健雄

①「広島県緑化センターにおける植物群落の把握」

広島県安芸町福田に建設中の緑化公園、緑化センターの現存植生図を作成し、地形との関係を明らかにする。アカマツ林(二次林)の復元地であり、アカマツの年齢とその下ばえの変化をもっとくわしくやればよかったと思う。

②大学生活は、やっぱりクラブをしなければいけないと思っている。学問を深める場であることはもちろんであるが、社会人として巣立つ前の4年間、色々な人間関係を経験しておくべきだと思う。自分は野球をやっていたが、大学4年を通して一番印象に残っているのが、リーグ優勝である。あの広島市民球場でプレーができたことも忘れられない。先輩達、後輩達とのつき合いは、社会に出てからも、役に立つと思う。自分が意識しなくても、そのようにふるまうことができるように思う。

▶田中淳介

①「脂質二分子膜の相転移とその生理的意義」

生体膜のモデルとして、この脂質二分子膜の構造、機能の研究であるが、実際には、この題名どおりの論文は全然できていない。1年間で、まともな研究、結果を出すのは無理ではないか。

▶江本雅裕

①「東広島市西条盆地の地盤地質について」

砂と泥の分布を高度別平面断面図に載せる。

②3年の秋に、与論島に泳ぎに行ったこと。2週間たっぷり楽しんだ。海の水が、澄んでいて、写真もたくさんとれた。島のまわりはサンゴのリーフが囲んでいて、波静か。11月なので人も少ない。広い砂浜で風に吹かれていると、時間も空も海も一語になっちゃう。頭がボーッとできて、つい寝ころんだり、浜の砂はサンゴや有孔虫のかけらでできているので、さらっとしていてクリーム色。やがて日が暮れていく。夜の海は、不気味。静かに星をながめていても、風の音と波の音、それに暗やみが近づいてくるみたいで落ち着かない。昼見えた人家や舟や漁師たちもどこかへ行ってしまった。夜は、大自然の中に一匹の野生動物となってもどって行く時なのだ!!

▶瀬尾佳代

①「広島県における気温の逆転の気候学的研究」

気温の逆転の発現傾向及び、大気汚染との関係。

②我々は、総合科学部が発足してから3回目の卒業生となるわけですが、まだ現在の段階では、総合科学部であって総合科学部でないような気がします。講義にしても各分野ごとにバラバラで、横のつながりが乏しいものとなっているのが最大の原因と思われます。1・2・3年生は、このようなことをなくすよう努力し、真の総合科学部となることを希望します。

▶野口勇

①「カンアオイ属植物の成分に関する研究」

カンアオイの精油成分を明らかにすることを目的とし、その過程で抽出法、分離法(カラムクロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー)、同定法(マススペクトル法、赤外スペクトル法、紫外スペクトル法)などを修得する。

②1年目、ただひたすらクラブに打ち込み、他の事を考えることができなかった。従って講義の出席率は非常に低かった。2年目、ひとつ先輩となり、少しは楽になるかと思ったが、上からおさえられ下からはつき上げられる哀しき2回生。講義の方は毎日殆んど全部出席していた。3年目、クラブでは幹部となり、部の顔として常に150%ぐらいの力でやってきた。講義も殆んど出席。4年目、時の流れの速さに驚くばかり。思えばよくクラブ(空手道部)を続けて行けたと思う。回りは皆自分より10~20cmも大きい者ばかり。だが師範が言われた。「器用よりも努力」と。精一杯やってきた。近く大学を離れるにあたり寂しさがこみ上げてくる。

▶仙波裕子

①「酵素免疫反応を用いる化学計測」

試料中のイムノグロブリン量の測定が目的であったが、計測法の研究のみで終わりそう。

②現在は、卒論のことに追われているが、4年間で一番勉強になったと思えるのは、クラブでの経験かも知れない。楽しいことや苦しいことをみんなで経験できたし、自分はないなあと反省させられた。素直に自分を出せるように、これから頑張りたい。

▶前延国治

①「金属ポルフィリンによる光エネルギーの化学的変換」

中心金属の違いによるTPPの光電気量子収率(ϕ)の変化、 I_2 gasの付加による ϕ の変化、またそれらの電気的特性について行ったが、光電池の長期的使用の為の処理が工夫できなかった。

②印象に残っている事と言えば、昨年全日本の合宿に於て仲間が2人死んでしまい、葬式での遺族の方の涙が深く残っている。いくら尽くしても、何をしても、死んだ者は帰ってこない。時として激しい空しさに襲われることもある。しかし今俺達は生きている。何かをしようと志せば、己れの努力で道は開ける。時を無駄にしたくない。一瞬一瞬を精一杯生きたい、己れのためだけでなく人の為にも。それが大望を胸に死んでいった者への償いであり、その遺志を継ぐことになると思うから。

死ぬ時に“我人生に悔いなし”と言える様に、“半ばは己れの幸せを、半ばは他人の幸せを”の気持ちで生きてゆきたい。

▶知念民雄

①「林野火災跡地における山地斜面の侵蝕過程」

人間のインパクトをからめると、大きなテーマとなる現象で、これからが本番。紹介はできない。まだわかっていない故に。

②学科もクラブも両方できるタイプの方は、欲張りすぎる。両方で頑張ると、ロキシーにもラブホテルにも行けないし、麻雀もパチンコもできぬ。私は、ロキシーのプロになりたい。しかし、ラブホテルのプロにはなれそうもない。

学園にて私はあまりにも年をとりすぎた。まっ白なパンツに穴があいた。それもちょうどケツのところに。

何日も着続けたまっ黒いパンツは捨てる気がしない。パンツが一枚減るから。

アンケートを終えて

編集部の力不足及び4年生の先輩方の協力不足を反映してか、アンケート総数24枚という不本意な結果になってしまいました。資料としては、コースの偏りが目立ち、こちらの意図が充分達成されたとは言い難いようです。しかし、総合科学部創設以来、3回目の卒業生を送り出した今、混迷の中から何らかの形で、新しい学部としての方向性が定まりつつあるのではないのでしょうか。それを決定づけてゆくのが、私達在校生に残された課題です。

1年生諸君にとって、まったく得体の知れぬ“総科”なるもの、それは諸先輩方にとっても、また私達にとっても、明確に把握しているとは言えないものです。そして、それは各人が4年間総科で学ぶ中に、それぞれでつかんでゆくものではないでしょうか。今後も『飛翔』はひき続き、「総科とは何か」というテーマに基づき、それを探ってゆく資料を提供するつもりです。

最後になりましたが、卒論その他で、多忙な中を協力して下さった先輩方に、厚く御礼申し上げます。

そして、先輩方が輝やける未来を手中に収められるよう祈って、本企画の終りとします。

(編集委員、松尾・佐本)



「卒論題目紹介」

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
地域	中井良幸	待遇表現の研究 —現代学生の言語生活調査を通して—	地域	小林繁実	古代における星辰仰について
”	飯田佳子	山代巴の創作活動とその作品研究 —「荷車の歌」を中心に—	”	谷村武士	錦川流域方言の研究 —岩国市天尾地域を中心として—
”	石塚幸雄	地域福祉の研究	”	田村真一	Sapir Whorf の仮説と言語普遍論
”	伊藤教代	在日朝鮮人被爆者問題に関する考察 —ある被爆婦人の戦後過程を中心に—	”	富田香代子	アメリカ社会における移民の同化過程 —特にアイルランド系移民の Social Mobility について—
”	学頭一成	後期ゴシックとヤン・ファン・アイクの芸術	”	永田 淳	ギルディッド・エイジにおける改革運動
”	河本 隆	堀辰雄研究	”	中西礼子	アンティベラム社会の矛盾的存在 「自由黒人」
”	久住美津恵	漢字習得の経路と要因に関する研究	”	浜田紀子	バリ島における象徴的二元論
”	久留島幹夫	毛沢東の人間観 —整風運動の展開から—	”	久森和代	The Rise of David Levinsky とユダヤ系移民の生活
”	斎藤節子	Die Aufgabe des Dichters bei Robert Musil 作家の課題—ローベルト・ムージールの場合	”	俵藤美恵	Ethnic Identity —マレーシアの場合—
”	高井一範	Saul Bellowにおける疎外とシュリマーゼル (Schlimazlness) 性について	”	藤井鶴代	巨大企業のアメリカ社会経済への影響 —対外直接投資を中心として—
”	多々良陽子	アンデス農民の変容過程	”	増渕宏夫	アメリカの対中東関係
”	富田晃次	フィリピン農村社会と土地制度—考 —技術協力の周辺から—	”	松浦 泉	カーストの動態に関する—研究
”	姉崎麻由子	パンドラ神話	”	松田祥江	フロンティアにおける社会統制について —サンフランシスコ自警団の場合—
”	石松 繁	星の神話・伝承に関する考察	”	松永仁子	伊藤整研究
”	井上淳子	ヨーロッパ人宣教師の日本観 —フロイスの「日本史」を中心に—	”	松本育代	服飾と人間
”	宇都宮弘子	シュルレアリスムと詩の現在	”	丸野康一	現代日本語の表記の諸相について —カタカナ表記からみた日本語試論
”	大山茂之	16～18世紀イングランドの社会構造 —ピーター・ラズレット 「失われた世界」を中心に—	”	三尾寛次	「サンベルト」の社会・経済の発展
”	小谷千弘	丹後機業の研究	”	水野 茂	エドヴァルト・ムンク研究 —その表現主義的なるものを求めて—
”	糟谷敦子	アロイス・リーグル「美術様式論」のアラベスクをめぐって	”	三谷慶太	18世紀フランスにおける子どもの地位、捨て子の研究から
”	楠木清美	都市と郊外の変遷 —ボストン市の成長—	”	安田真喜雄	中国の説得形態についての—考察
			”	安永ゆかり	日本近世における育児論の展開
			”	山本裕子	日系アメリカ人の同化 —その「家族」から見た—考察—

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
地域	六郷 寛	明治末期神社併合の地域的考察 ー広島県を中心としてー	社会	松岡 勇	海面埋立にともなう漁業補償
社会	森 一晃	ドイツ賠償問題 ーアメリカの立場を中心にしてー	〃	森 昌弘	関西民鉄の発達と展望
〃	芦田真吾	エールリッヒ法社会学に関する考察	〃	山下一成	「環境アセスメント」に関する法的考察
〃	伊東 巧	ジョン・ロック研究 「市民政府論」第1篇による神と所有権に関する考察	〃	吉田 明	「日本技術水準の再考」 ー技術貿易を通してー
〃	久保田博	財政調整制度に関する一考察	情報	会沢邦夫	人工知能研究における発見的探索の問題 ーオセロ・ゲームの場合ー
〃	酒井英史	「社会的分業」概念の検討 副題：分業論の系譜・序説	〃	金重光人	言語モデリングにおける代理性強化の機能に関する研究
〃	佐内敬治	自由民主党の成立とその構造 ー近代化への可能性についてー	〃	西条保幸	選択行動のモデルの構成
〃	新野 寛	人格概念についての一考察	〃	井上恭一	「甘え」を中心とした対人認知様式についての基礎的研究
〃	田中孝典	全国地方都市財政統計比較 ー地方財政の特徴と事例研究ー	〃	井原誠司	自然数論の形式的展開
〃	相浦 衛	日本に於ける西洋建築の移植過程の研究	〃	片岡喜美	語の認知におけるラテラリティに関する研究 ー左右各視野に呈示された語の熟知性の効果ー
〃	安藤正義	「非同盟運動の現状分析」 ー第6回非同盟会議を中心にー	〃	上河内孝行	大腸菌RNA合成酵素の精製
〃	井坂竹志	泉州綿織物業における下請制度	〃	坂田省吾	ラットにおける時間弁別 ーDRL スケジュールを用いてー
〃	井手正親	変動期における保守主義政治家 ーS・V・パテールの研究ー	〃	坂根嘉典	線画によるFacial Expressionに関する研究
〃	井戸裕子	社会現象としての流言に関する考察	〃	正藤雅子	ラットの弁別行動に及ぼす海馬損傷の効果
〃	大久保 敦	「海田湾埋立問題の法社会的考察」	〃	白石秀樹	ラットの学習に及ぼす嫌悪刺激の効果
〃	大西五己	マルクスにおける「大工業」理論の成立過程の一考察	〃	瀬川あづさ	映画の時間体験 Movie Time 型 ーNon-Movie Time 型に関する一実験
〃	小川秀樹	現代行政手続の一考察	〃	田口久夫	マイクロコンピュータのインタプリタについての研究
〃	葛城健志	内閣使節団の構想とその分析 ー印パ分離独立への一過程ー	〃	武田美智	Eysenck の inhibition theory に関する一実験的検討
〃	国弘 正	「放送へのアクセスと関係法制的諸問題」	〃	谷口有子	アキレス腱反射と膝蓋腱反射との関連性に関する生理学的研究
〃	桑原樹郎	極東委員会の組織と機能	〃	中村美栄	軟体動物アカニシの口器と心臓に対する神経支配
〃	白石裕之	1950, 60年代におけるアメリカの産軍複合体制	〃	奈良木英人	デジタル信号処理における実数ディスクリット変換の研究
〃	玉井祥子	「核家族化と老人問題」	〃	西川茂樹	L S I テスタ用翻訳プログラムに関する研究
〃	永山徹郎	地方都市における大型小売店舗進出問題 ー熊本市におけるダイエーの場合ー	〃	日向鋭自	小集団成員の社会的動機からみたリーダーシップ条件効果に関する基礎的研究
〃	藤則幸男	「瀬戸内海地域開発と臨海部埋立て」			
〃	前村茂年	農地改革における土地問題			

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
情報	平本 光	「関数近似プログラムの開発」 (与えられたサンプル点を連続かつなめらかにつなぐ曲線のグラフィック)	環境	仙波裕子	学的研究
〃	藤野常信	外国語の最適な学び方	〃	田中淳介	酵素免疫反応を用いる化学計測 脂質二分子膜の相転移とその生理的意義
〃	藤原真理子	The action of histamine on the radula retractor of <i>Rapana Thomasiana</i>	〃	知念民雄	林野火災跡地における山地斜面の侵蝕過程 —江田島の例(1978年6月1日～3日)—
〃	古市雅之	アカニシ歯舌牽引筋におけるヒスタミンの作用	〃	塚内芳巳	植物根と微生物の相互作用に関する研究
〃	宗像景紀	恐怖喚起コミュニケーションが態度変容に及ぼす効果	〃	土江健雄	広島県緑化センターにおける植物群落の把握
〃	横山 朗	視覚的情報および言語的情報が印象形成に与える影響について	〃	中村真弓	貯蔵穀物害虫ヒラタコクヌストモドキを用いた環境収容力の研究
〃	横山 博司	企業における「高学歴化」・「高年齢化」に関する従業員および学生の意識	〃	西 明彦	昆虫に作用する生態相関化学物質の研究
〃	吉田和子	不安に関する研究 —嫌悪刺激到来の予測可能性と情動に関する仮説の検討—	〃	西島俊彦	鉄道沿線における帰化植物の動態
環境	田中克敏	LSエレミアアウトパターンの縮小化プログラム	〃	野口 勇	カンアオイ属植物の成分に関する研究
〃	豊内正治	ステロイド水酸化電子伝達系におけるNADPH—チトクロム P—450還元酵素の反応機構	〃	野村和芳	岡山県上房郡北房町付近の古生～新生界の層序・地質構造ならびに環境地質学的研究
〃	水野博之	傾斜地における水収支 —降雨と浸透量について—	〃	南風原鞠彦	無菌培養したマカラムギ子葉鞘先端におけるインドール酢酸の生合成
〃	江本雅裕	米の乾燥・貯蔵条件と貯蔵穀物害虫の発生・発育に関する生態学的研究	〃	橋本淑子	広島県緑化センターにおける三次処理 —特にリンを中心として—
〃	大久保卓也	東広島市西条盆地の地盤地質について	〃	藤井亮子	広島県帝釈石灰岩についての層序学的ならびに資源論的研究
〃	柏原俊司	「重金属の生物濃縮—水銀」	〃	前延国治	金属ポルフィリンによる光エネルギーの化学的変換
〃	木原伸雄	地すべり地の電気探査による防災研究	〃	横田峰雄	臨界光散乱実験装置の開発と製作
〃	瀬尾佳代	膜系における光電荷分離の研究	〃	渡辺 昭	微生物による汚水浄化
〃		広島県における気温の逆転の気候			

『統合移転に関するアンケートの結果から』

編集部

総合科学部の52生、53生、54生を対象に移転に関するアンケートをおこなった。回答総数が120であり、これだけでは、総科学生生の全ての声というわけにはいかないが、私達学生のおおまかな意見がわかるはずである。

Q1 あなたは統合移転に関心がありますか。



60% 強の人が関心があると答えた。これは編集委員会の予想をはるかに超えるものである。